

令和3年度全国学力・学習状況調査

本県の結果と今後の対策

【小学校】

令和3年12月17日

青森県教育庁学校教育課

* 本報告書の活用にあたって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものです。

本報告書の活用にあたっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたいです。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、全ての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『令和〇年度全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（CD-ROM版）を参照してください。

また、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」が掲載されていますので、併せて活用してください。

* 本報告書の用語や記号等について *

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用しています。

「全国平均との差」

：「今年度の本県の平均正答率－今年度の全国の平均正答率」の式で求めた値。本県が全国を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

「前年度との差」

：「今年度の本県の平均正答率－令和元年度の本県の平均正答率」の式で求めた値。今年度が令和元年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

「過年度との差」

：隔年で質問されている項目へ対応するため、「今年度の本県の平均回答率－平成30年度の本県の平均回答率」の式で求めた値。今年度が平成30年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

※本県の平均正答率は「%」で、過年度との差については「ポイント」で表しています。

「□」：概況を示しています。

「▼」：課題を示しています。

「◆」：今後の方向性や対策・指導等を示しています。

「★」：肯定的な回答と教科の相関があることを示しています。

「数字」：本県の平均正答率が、対比している値に対して5ポイント以上上下回っていることを示しています。

令和3年度全国学力・学習状況調査 本県の結果と今後の対策【小学校】

目 次

I 全体概要	1
1 調査の概要	1
2 教科ごとの状況.....	1
3 質問紙調査結果から見える要因.....	2
II 国語	3
1 教科全体の結果	3
2 領域別の正答率	3
3 問題別集計結果	4
4 問題別集計結果の状況	5
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況	6
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況	7
7 指導改善のポイント	8
平成31年度(令和元年度)県学習状況調査を踏まえて(国語) >	10
III 算数	11
1 教科全体の結果	11
2 領域別の正答率	11
3 問題別集計結果	12
4 問題別集計結果の状況	13
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況	15
6 学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況	16
7 指導改善のポイント	17
平成31年度(令和元年度)県学習状況調査を踏まえて(算数) >	18
V 質問紙調査	19
1 児童質問紙調査の結果と今後の対策	19
2 学校質問紙調査の結果と今後の対策	25

I 全体概要

I 調査の概要

(1) 調査実施日

令和3年5月27日(木)

(2) 調査内容(教科、質問紙調査)

① 教科

小学校 国語(45分) 算数(45分)

中学校 国語(50分) 数学(50分)

② 質問紙

児童生徒質問紙調査

学校質問紙調査

(3) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 257校(全国 18,965校)

中学校参加校数 本県 150校(全国 9,475校)

(4) 参加児童生徒数

小学校児童数 本県 8,757名【国語】(全国 993,975名)

8,759名【算数】(全国 994,101名)

中学校生徒数 本県 8,965名【国語】(全国 903,157名)

8,963名【数学】(全国 903,253名)

2 教科ごとの状況

本県の公立小・中学校の児童生徒の学力の状況は、全ての教科で、平均正答率が全国平均を上回るか同程度であり、概ね良好な状況にあります。

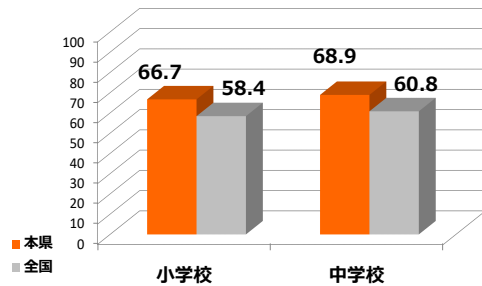
	令和3年度	
	平均正答率(%)	
	青森県(公立)	全国(公立)
小学校国語	69	64.7
小学校算数	71	70.2
中学校国語	66	64.6
中学校数学	56	57.2

3 質問紙調査から見える要因

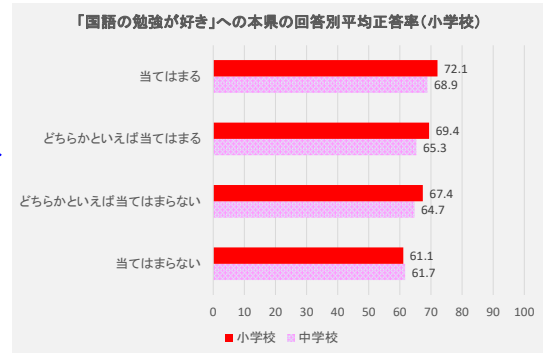
ここでは、本県の調査結果に係る要因の1つとして「各教科に対する興味・関心について」取り上げています。その他の要因については、各教科の頁を参照してください。

要因につながるデータ

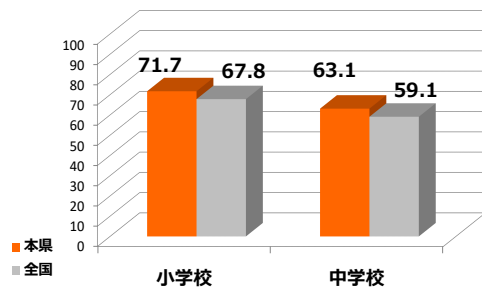
【国語の勉強は好きか】



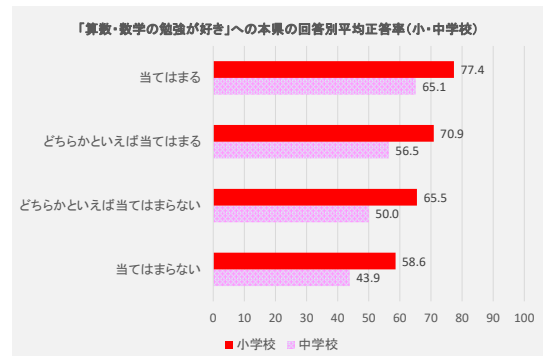
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合 (%)】



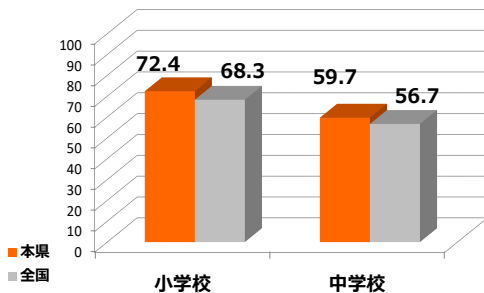
【算数・数学の勉強は好きか】



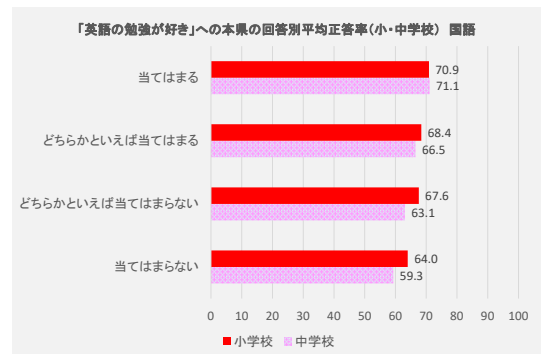
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合 (%)】



【英語の勉強は好きか】



【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合 (%)】



- 本県の児童生徒は、各教科の学習に対する興味・関心が全国平均を上回っている。
- 各教科の学習に対する関心が高い児童生徒は、各教科における平均正答率も高い傾向にある。
- ◆今後も、児童生徒の各教科の学習に対する興味・関心を高める働きかけを工夫するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが肝要である。

II 国語

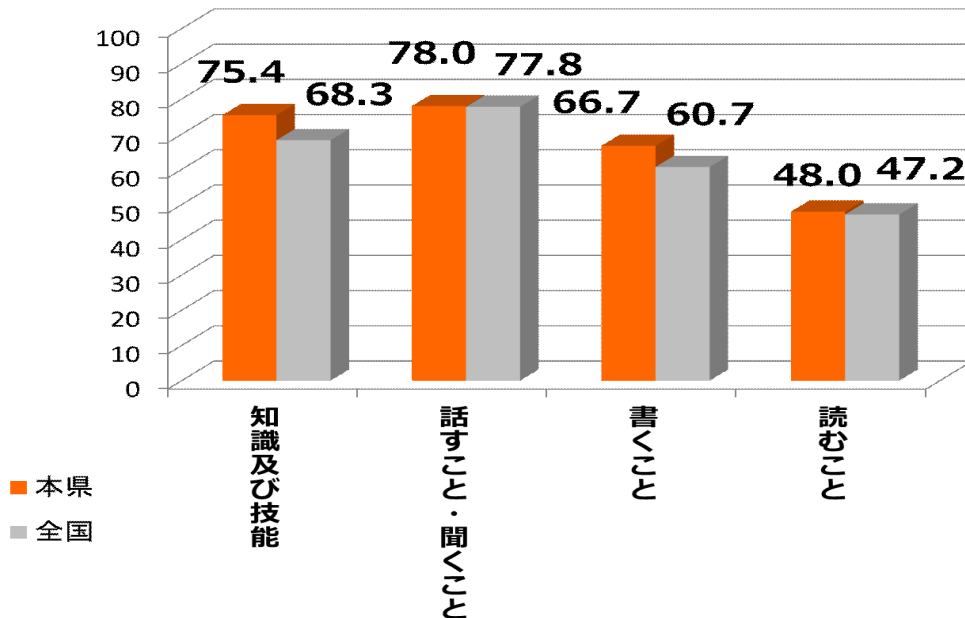
I 教科全体の結果

国語の平均正答率 (%)		
青森県	全国平均との差	令和元年度全国平均との差
69	+4.3	+6.2

□ 国語全体としては、本県は、全国平均を上回っている。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率 (%)			
		青森県	全国平均との差	令和元年度全国平均との差	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	75.4	+7.1	
		(2) 情報の扱い方に関する事項			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	78.0	+0.2	+6.1
		B 書くこと	66.7	+6.0	+3.9
		C 読むこと	48.0	+0.8	+3.9
評価の観点	知識・技能	75.4	+7.1		
	思考・判断・表現	63.9	+1.8		
	主体的に学習に取り組む態度				



- 「知識及び技能」及び「書くこと」については、全国平均を上回っている。
 □ 「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」については、全国平均と同程度である。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)			
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	青森県(公立)	全国(公立)	全国(公立)との差	
			(1)	(2)	(3)	A	B	C										
			言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと										
1一	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える					5・6 イ				○					77.9	77.5	0.4
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、【資料②】と【資料③】を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する					5・6 ウ				○					74.7	74.9	-0.2
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の部分で話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す					5・6 ウ				○					81.5	81.0	0.5
2一	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する					5・6 ア				○					76.0	77.6	-1.6
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う	5・6 オ								○					88.8	87.5	1.3
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける					5・6 ウ				○					38.3	34.4	3.9
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する					3・4 ウ				○					29.6	29.7	-0.1
3一	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える					5・6 イ				○					68.9	64.8	4.1
3二	丸山さんの【文章の下書き】の部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する					5・6 ウ				○					64.5	56.6	7.9
3三(1)ア			5・6 エ								○					85.3	78.3	7.0
3三(1)ウ		学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6 エ								○					68.5	54.4	14.1
3三(1)エ			5・6 エ								○					82.2	79.0	3.2
3三(2)イ		文における主語と述語との関係を捉える	3・4 カ								○					78.0	67.0	11.0
3三(2)オ		文における修飾と被修飾との関係を捉える	3・4 カ								○					49.5	43.6	5.9

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。」
【3三(1)ウ】対全国比：+14.1、【3三(1)ア】対全国比：+7.0)
- ・「文の中における主語と述語との関係を捉える。」
【3三(2)イ】対全国比：+11.0)

○思考力、判断力、表現力等

B 書くこと

- ・「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。」【3二】対全国比：+7.9)

▼課題であること

※全国平均を下回っているもの

▼思考力、判断力、表現力等

C 読むこと

- ・「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」
【2一】対全国比：-1.6)
- ・「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」
【2三】正答率が低い：38.3)
- ・「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」
【2四】対全国比：-0.1)

A 話すこと・聞くこと

- ・「資料を用いた目的を理解する。」
【1二】対全国比：-0.2)

学習指導に当たって

読むこと

- ・文章を部分的に取り上げて読むだけではなく、文章全体の構成を捉えることができるようにする。
- ・「中心となる事柄」を把握するために、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような感想や意見などを持っているのかなどに着目して、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章全体の構成を捉えることができるようにする。
- ・複数の文章を読む活動を取り入れることで、必要感をもって文章全体の構成を捉えたり要旨を把握したりすることができるようにする。
- ・文章を要約するために、目的に応じて文章全体から必要な部分を選び、内容を端的に説明することができるようにする。
- ・同じ文章を読んでも、読み手の目的によって内容の中心となる語や文は異なるため、要約した文章も異なるものになることを確認できるようにする。

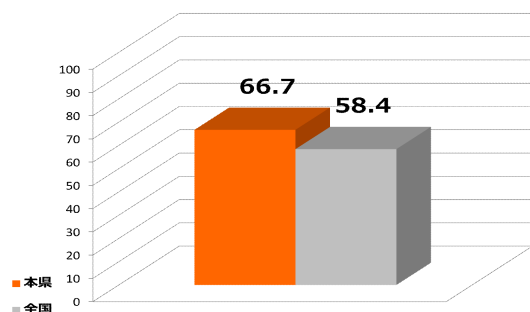
話すこと・聞くこと

- ・聞き手の立場に立った上で、話す内容を見直すとともに、目的に応じて、どのような資料を準備し、どのように使うかということを確認することができるようにする。
- ・自分の伝えたいことを伝えるために必要な資料は何かを、目的や相手、状況に応じて取捨選択できるようにする。

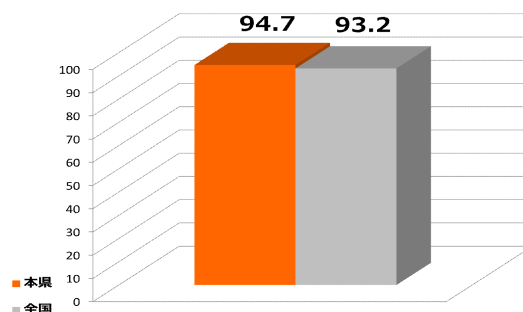
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童の割合(%)】

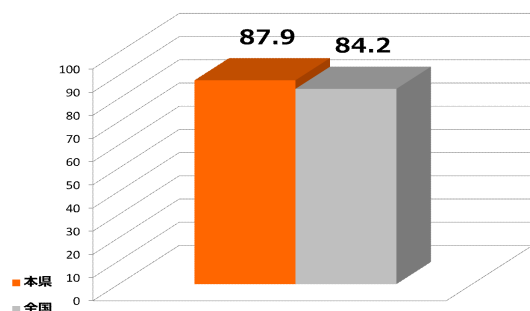
【(43) 国語の勉強は好きか】



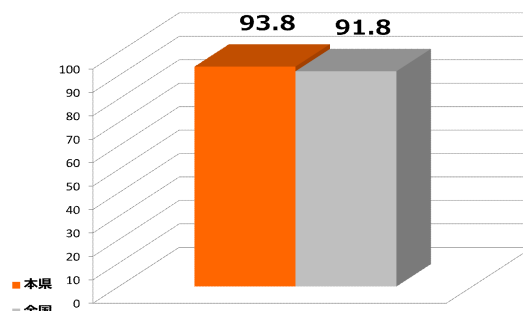
【(44) 国語の勉強は大切か】



【(45) 国語の授業はよく分かる】



【(46) 国語の授業で学習したことは、将来役に立つと思う】



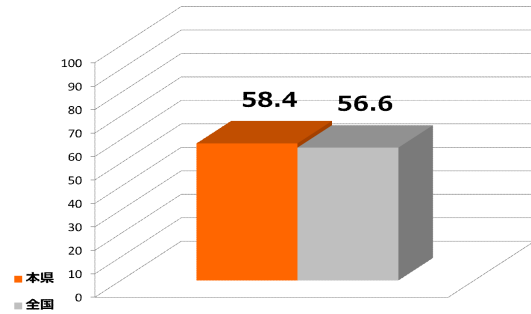
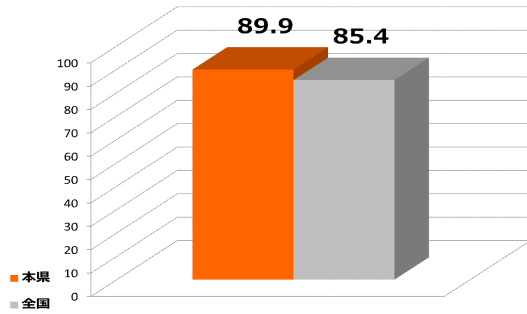
- 児童の国語学習に対する興味・関心や授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、国語の勉強が好きだと思う児童は全国平均を上回っている。
- 約9割の児童が、国語の授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。

6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

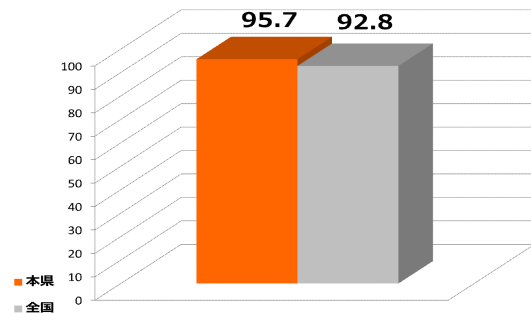
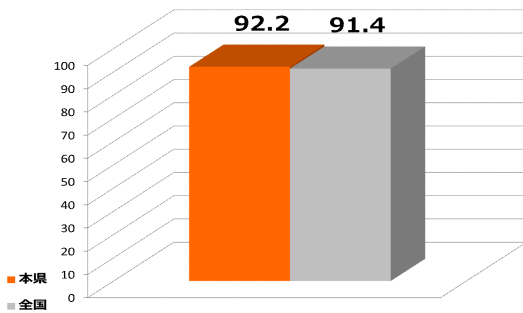
【(49) 補充的な学習の指導を行った】

【(50) 発展的な学習の指導を行った】



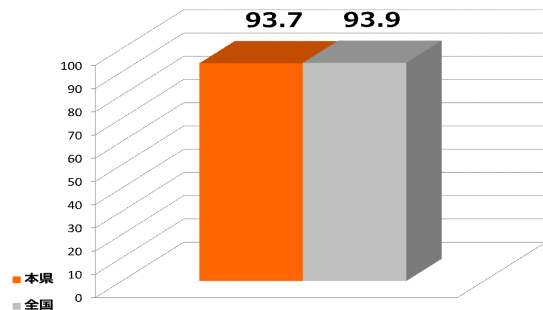
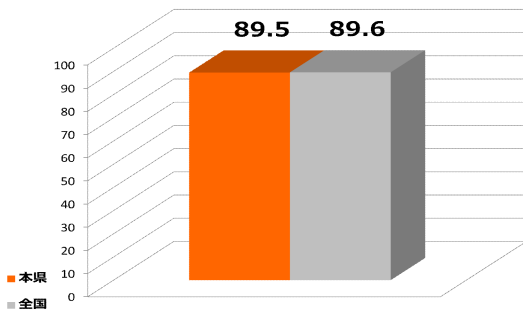
【(51) 言葉の特徴や使い方を理解したり使ったりする授業を行った】

【(52) 目的に応じて考えを話したり質問したりする授業を行った】



【(53) 目的に応じて考えと理由を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行った】

【(54) 目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり考えを広げたりする授業を行った】



□教員の国語指導に対する取組の意識は全国平均と同程度である。

▼発展的な学習の指導は、全国平均を上回っているものの6割に達していない。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について《令和3年度 全国学力・学習状況調査 報告書より》

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

◆ 文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉える指導の充実

- ・ 主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であることに気付くことができるように指導することが大切である。〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の「推敲」に関する指導事項などとの関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。自分が書いた文章を読み返す際に、読み手の立場に立って、言葉の使い方を確認する習慣を身に付けることが重要である。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

◆ 資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導の充実

- ・ 表現を工夫するためには、目的や意図に応じて、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要である。その上で、聞き手に提示する資料のどの部分に着目してほしいのか、どのような説明を加えると話の内容を分かりやすく伝えられるのかについて検討し、自分の表現に生かすことができるように指導することが大切である。発表を相互に見合ったり、話す様子や聞き手の様子を動画で撮影したりして、自らの表現や聞き手の反応を客観的に捉えることができるように指導することが効果的である。

書くこと

◆ 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実

- ・ 自分の考えが伝わるように書くためには、目的や意図に応じて、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合を、自ら判断して書くことが重要である。その上で、事実と感想、意見とを区別して書くことができるように指導することが大切である。自分の考えとそれを支える理由や事例といった関係性が明確になっているか、事例は客観的な事実裏付けられているかなどを確かめて、自分の考えを深めることができるように指導することが効果的である。

読むこと

◆ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する指導の充実

- ・ 要約するとは、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることである。要約する目的を意識して、文章全体から内容の中心となる語や文を選び、要約の分量などを考えて要約することができるように指導することが大切である。

◆ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける指導の充実

- ・ 図表やグラフなどを含む文章を読む際には、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにし、文章と図表などとの関係を捉えて読むことが重要である。その上で、必要な情報を結び付けて内容を理解することができるように指導することが大切である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

児童質問紙

◆ 言葉の特徴や使い方を大切に、目的に応じて書いたり読んだりする指導の充実

- ・ 「国語の授業の内容はよく分かる」
「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている」
「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている」
「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりしている」
「今回の国語の問題について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」
- このように回答している児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られ、本県は5問全問で全国平均を3～5ポイント上回っている。国語に関する全ての質問事項から、児童の国語に対する興味・関心や授業の理解度等は、全体的に良好な状況にあるので、今後も言葉の特徴や使い方に関する指導や書き表し方を工夫する指導、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする指導を継続していくことが大切である。

学校質問紙

◆ 学習内容をさらに深めたり広げたりすることができる発展的な学習の指導の充実

- ・ 「国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行った」
- このように回答している学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られ、本県は全国平均を1.8ポイント上回っているものの、令和元年度と比較すると10.1ポイント低くなっている。発展的な指導を行うことは、児童の発達段階に応じ、国語科の目標や学習活動のねらいを効果的に実現するために必要である。児童が、基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童や学校の実態を捉えて、児童の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習を取り入れるとともに、今後も学習したことを活用して深めたり広げたりできる発展的な学習の指導を充実させていくことが大切である。その際、児童の負担過重とならないように配慮するとともに、学習内容の理解を一層深め、広げるという観点から適切に導入することが大切である。

〈令和元年度県学習状況調査を踏まえて（国語）〉

令和元年度県学習状況調査実施報告書において、本県の小学生は「読むこと」に課題があると分析した。

説明的な文章については、目的や問題の条件を踏まえた複数の情報の比較や読み取りが不足していることが考えられる。今後の指導に当たっては、目的や必要に応じて文章などを引用したり要約したりすることができるよう、児童自身が必要感をもてるような言語活動の工夫が大切である。その際には、文章の要点や細かい点に注意し、文と文の関係や段落相互の関係に注目して情報を見付けさせたり、複数の情報を比較させたり、目的に応じて要約させたりすることが大切である。また、複数の資料を使ったり、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」と関連させて指導したりすることも大切である。

また、文学的な文章については、文章全体を見通して、行動や会話、地の文などの複数の叙述から会話文と地の文を区別し、行動や心情などを捉える力が不足していると考えられる。今後の指導に当たっては、様子や行動、気持ちや性格を表す語句を捉え、動作化によって実感を伴って理解させたり、国語辞典を活用させたりすることが大切である。また、年間や単元を通して語彙を豊かにさせるために、オリジナル辞書を作るといった工夫も必要である。登場人物の行動や気持ちなどを捉えることは、文章を精査・解釈することや自分の考えを形成することなどにつながるものである。一つの場面だけではなく、複数の場面を関係付けながら考えることで、一人一人の読みが深まっていくようにすることが必要である。また、対話的な学びを通して、文章中で重要な意味をもつキーワードを手がかりに、登場人物の行動の意味や気持ちの変化などについて考え、友達一人一人の感じ方のよさに気付かせながら、自分の考えをもたせることが大切である。

【令和元年度県学習状況調査実施報告書より】

令和3年度全国学力・学習状況調査では、「読むこと」については、3問出題され、県の平均正答率は48.0%と全国平均を0.8ポイント上回っているが、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題の正答率は全国平均を1.6ポイント下回る結果となった。

今後の指導に当たっては、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や、書き手の考えの中心となる事柄である要旨を把握するために、文章全体の構成を捉えさせることが必要である。また、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えさせることが重要である。その際、叙述を基に、書き手が、どのような事実を理由や事柄として挙げているのか、どのような感想や意見などをもっているのかなどに着目して、事実と感想、意見などとの関係を押さえることが必要となる。また、[知識及び技能]の(1)力の「話や文章の構成や展開」と関連付けて指導することも有効である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和元年度県学習状況調査実施報告書
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・令和3年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

Ⅲ 算数

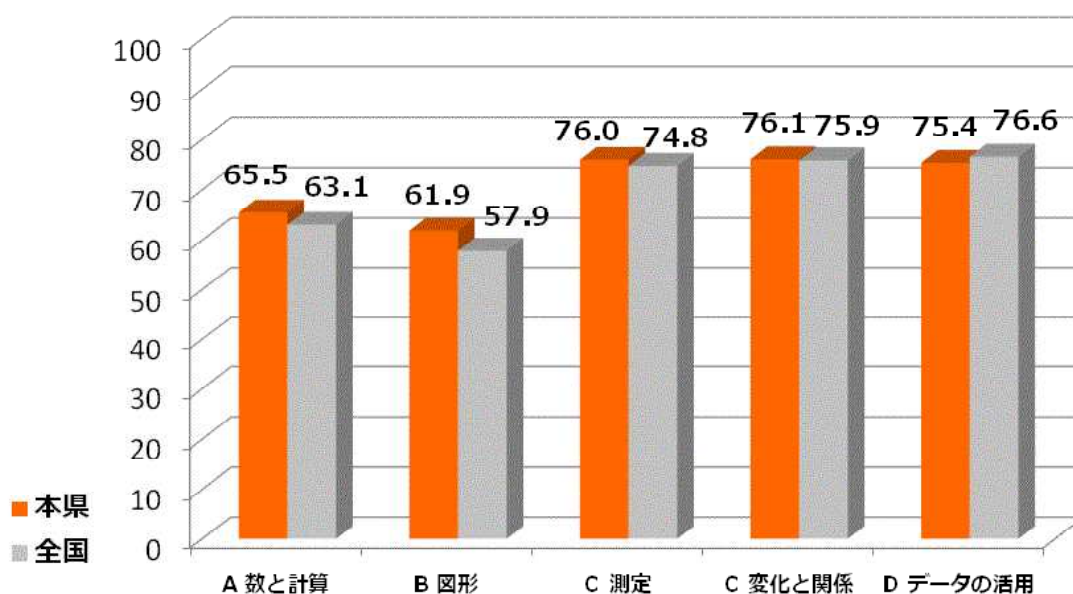
1 教科全体の結果

算数の平均正答率 (%)		
青森県	全国平均との差	令和元年度全国平均との差
71	+0.8	±0

□ 算数全体としては、本県は、全国平均と同程度である。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率 (%)		
		青森県	全国との差	令和元年度全国平均との差
学習指導要領の領域	A 数と計算	65.5	+2.4	+0.2
	B 図形	61.9	+4.0	+1.6
	C 測定	76.0	+1.2	
	C 変化と関係	76.1	+0.2	
	D データの活用	75.4	-0.6	
評価の観点	知識・技能	75.1	+1.0	
	思考・判断・表現	66.6	+1.5	
	主体的に学習に取り組む態度			



□ 全ての領域において、全国平均と同程度である。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点	問題形式			正答率(%)				
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係		D データの活用	選択式	短答式	記述式	青森県 (公立)	全国 (公立)	全国 (公立) との差	
1(1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	1(2) 7(4) 3(2) 7(4) ※		2(1) 7(7)					○		○	66.7	62.5	4.2
1(2)	500mを歩くのに7分かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる			5(1) 4(7) 5(2) 4(7)					○		○	85.6	86.7	-1.1
1(3)	㊸と㊹の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味を理解している			5(2) 7(7)					○		○	55.2	55.8	-0.6
1(4)	午後1時05分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができる			3(2) 7(4)					○		○	69.6	69.2	0.4
1(5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる			5(2) 7(7)					○		○	87.5	85.1	2.4
2(1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している			2(0) 7(7)					○		○	64.5	55.1	9.4
2(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる			5(3) 7(7)	1(1) 7(4)				○		○	71.6	72.5	-0.9
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる			6(3) 7(7) ※					○		○	49.6	46.0	3.6
3(1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができる				3(1) 7(4)				○		○	96.1	95.8	0.3
3(2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる				3(1) 7(4)				○		○	90.3	90.7	-0.4
3(3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができる				4(1) 7(7)				○		○	65.0	67.5	-2.5
3(4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる				5(1) 7(7) ※				○		○	53.2	52.0	1.2
3(5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる				5(1) 7(4) ※				○		○	72.6	73.9	-1.3
4(1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる				3(4) 7(7) 4(4)				○		○	83.6	83.0	0.6
4(2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一入分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる				4(4) 7(2)				○		○	56.4	55.5	0.9
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる				4(4) 7(7) ※				○		○	55.2	51.5	3.7

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

○A数と計算、C測定

- ・二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。
（【1（1）】対全国比：+4.2）

○C変化と関係

- ・速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる。
（【1（5）】対全国比：+2.4）

○B図形

- ・三角形の面積の求め方について理解している。
（【2（1）】対全国比：+9.4）
- ・複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。
（【2（3）】対全国比：+3.6）

○A数と計算

- ・小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。
（【4（3）】対全国比：+3.7）

▼課題であること

▼C変化と関係

- ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。
（【1（2）】対全国比：-1.1）

▼Dデータの活用

- ・データを二次元の表に分類整理することができる。
（【3（3）】対全国比：-2.5）
- ・集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる。
（【3（5）】対全国比：-1.3）

学習指導に当たって

A数と計算

- ・数量の関係を捉え、正しく立式したり、計算結果を基に問題場면을振り返ったりすることができるようにする。

除法の場面では、何が被除数で、何が除数かを捉えて立式することができるようにすることが重要である。

立式でつまづく児童は、除法が（大きい数）÷（小さい数）であると捉えていたり、問題文に示されている数値の順序通りに立式したりしていると考えられる。

指導に当たっては、例えば、8人に4Lのジュースを等しく分けるということ、4Lのジュースを8人に等しく分けると言い換えたり、 $4 \div 8 = 0.5$ という立式の理由を解釈する場を通して、問題場面に対応した式について話し合ったりする活動が考えられる。その際、具体物

を操作したり、絵や図で表したりしながら、「なぜ $4 \div 8$ の式になるといえるのか」について理由を説明できるようにすることが大切である。

B 図形

- ・量の保存性や量の加法性といった基本的な性質について理解し、それらの性質を基に量について考察できるようにする。

図形の面積の学習では、ある図形を分割して並べ替えても面積が変わらないという量の保存性や、二つの図形を組み合わせた図形の面積はそれぞれの面積の和になるという量の加法性といった基本的な性質を理解し、活用できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、平行四辺形の面積の公式をつくりだすために、方眼上の平行四辺形を分割し、それらを並べ替えて長方形に変形する活動が考えられる。その際、基本的な性質が用いられていることを理解できるようにすることが大切である。

C 変化と関係

- ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらを用いることができるようにする。

問題場面から二つの数量の関係に着目しながら変化の規則性を捉え、その変化の特徴を用いて問題を解決できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、500mを歩くのに7分間かかったことを基に1000mを歩くのにかかる時間を求める活動が考えられる。その際、同じ速さで歩き続けることに着目して、500mを歩くのに7分間かかる人は、これ以降の500mを歩く場合も、7分間かかると考え、道のりと時間について、道のりが2倍になれば時間も2倍になることから、比例の関係を用いて時間を求めることができるというよさを理解できるようにすることが大切である。また、答えが得られた後には、日常の事象に戻して答えの意味を考え、必要に応じて見直すことができるようにすることも大切である。

D データの活用

- ・目的に応じて集めたデータを二つの観点から、二次元の表に分類整理できるようにする。

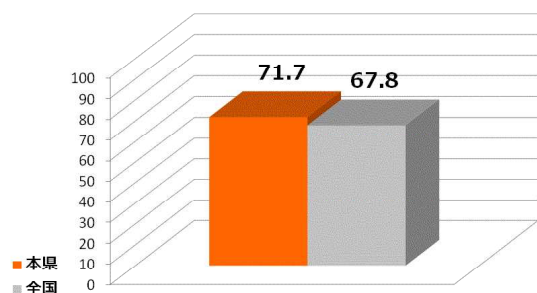
二次元の表には、異なる項目間での関係について考察できるというよさがあり、目的に応じて集めたデータを二つの観点から分類整理できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、「読書が好きかどうか」、「9月に図書室で5冊以上借りたかどうか」の二つの観点からデータを調べるとき、読書が好き人は多いが、図書室で本を借りた人は少ないのではないかという問題意識に基づき、どのようなデータを分類整理すればよいかを考える活動が考えられる。その際、「読書が好きかどうか」、「9月に図書室で5冊以上借りたかどうか」の二つの観点からデータを調べ、四つの場合に分類整理し、二次元の表に表すことができるようにすることが大切である。

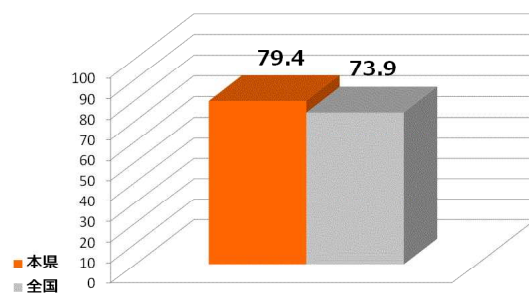
5 児童質問紙調査の結果から見える本県児童の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童の割合（％）】

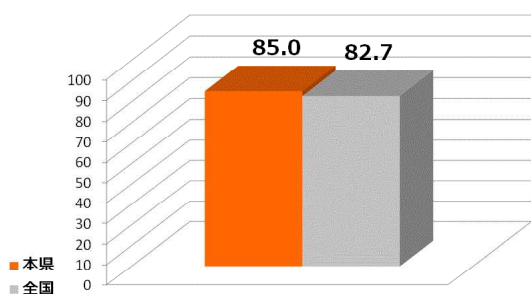
【(52) 算数の勉強は好きか】



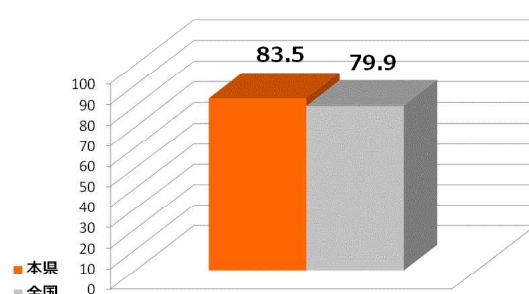
【(56) 学習したことを生活に活用できないか考える】



【(57) 分からないとき、いろいろな方法で考える】



【(60) わけや求め方を書く問題の解答を最後まで書こうとする】

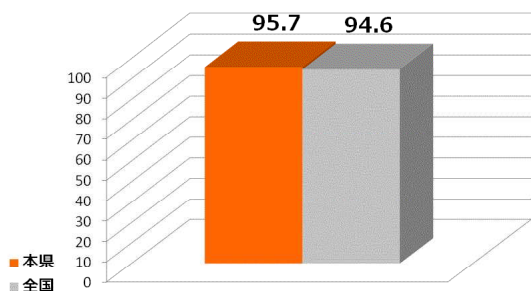


- 算数に関する児童の質問紙調査の結果は、全国平均を上回るか同程度である。
- 児童の算数に対する興味・関心や授業の理解度等は良好な状況にあり、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えようとしている。
- 言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について最後まで解答を書こうと努力した児童の割合が8割を上回っている。

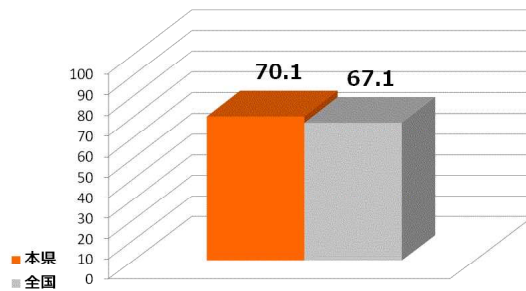
6 学校質問紙調査の結果から見える算数の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合（％）】

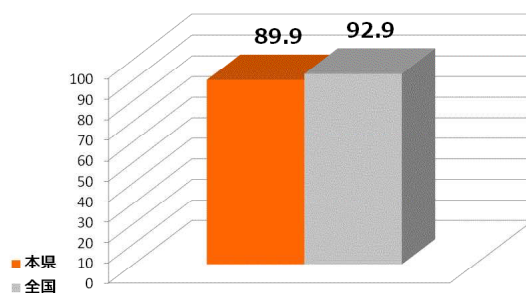
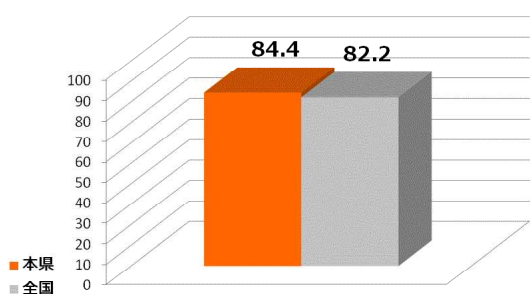
【(55) 補充的な学習の指導を行ったか】



【(56) 発展的な学習の指導を行ったか】



【(57) 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか】 【(60) 学習過程が分かるよう工夫してノートを書く指導を行ったか】



- 算数の指導に関する調査結果は、いずれも全国平均と同程度である。
- 補充的・発展的な学習の指導については、どちらも全国平均を数ポイント上回っているものの、前回調査と比較すると3～6ポイント程度下回っている。
- 問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導については、全国平均を3ポイント下回っている。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について《令和3年度 全国学力・学習状況調査 報告書より》

A数と計算

◆ 数量の関係を捉え、正しく立式したり、計算結果を基に問題場面を振り返ったりすることができるようにする指導の充実

- ・ 商が1より大きい場合だけでなく、商が1より小さい場合の除法についても、数量の關係に着目し、何が被除数で何が除数かを捉えて立式することができるようになることが重要である。さらに、計算結果について、日常生活の場面に即して判断できるようにすることも大切である。

B図形

◆ 量のもつ基本的な性質について理解し、それらの性質を基に考察できるようにする指導の充実

- ・ 図形の面積の学習では、量の保存性や量の加法性といった量のもつ基本的な性質を理解し、それらの性質を基に考察できるようにすることが重要である。

C変化と関係

◆ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解できるようにする指導の充実

- ・ 速さを比べる場合には、伴って変わる二つの数量の關係に着目し、それらの關係を用いたり、単位量当たりの大きさの意味及び表し方を理解し、単位量当たりの大きさを用いて比べたりすることができるようになることが重要である。その際、速さを求める除法の式と商の意味を理解できるようにすることが大切である。

Dデータの活用

◆ 統計的に問題解決するために、データを分類整理し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにする指導の充実

- ・ 身の回りの事象について、その事象の因果關係や傾向を漠然と捉えるだけでなく、データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察していくことができるようになることが重要である。その際、目的に応じて、データを集め、観点を決めて分類整理し、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ることができるようになることが大切である。

◆ 設定した問題に対して集めるべきデータを判断できるようにする指導の充実

- ・ 興味・関心や問題意識に基づき、統計的な問題解決ができるようになることが重要である。その際、統計的に解決可能な問題を設定することや、設定した問題に対してどのようなデータを集めるべきかを判断できるようにすることが大切である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

児童質問紙

◆ 問題発見・解決の過程を大切にしたい指導の充実

- ・ 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」
「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」
「今回の算数の問題について、最後まで解答を書こうと努力している」
このように回答している児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られ、本県については、いずれも全国平均を1.5～3.5ポイント程度上回っている。
算数に関する全ての質問事項から、児童の算数に対する興味・関心や授業の理解度等、

全体的に良好な状況にあるので、今後も児童が「数学的な見方・考え方」を自在に働かせながら、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、意味の理解を深めたり、概念を形成したりするなど、問題発見・解決の過程を大切にしている指導を継続していくことが大切である。

学校質問紙

◆ 問題の解き方や考え方の過程が分かるノート指導の充実

- ・ 「問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行った」と回答している学校の割合は、89.9%であるが、全国平均を3ポイント下回っている。児童が問題を解決するために、これまで作り上げてきた自分のノートを見返して既習事項を生かしたり、学習過程をノートで振り返ることで自分の考え方やその変容を知ったりできるように、問題の解き方や考え方の過程を分かるように、児童が工夫してノートを書くための具体的な指導が必要である。

〈令和元年度県学習状況調査を踏まえて（算数）〉

令和元年度県学習状況調査実施報告書において、本県の小学生は「図形」と「数量関係」の領域で課題があると分析した。

「図形」については、図形の定義や性質について図形の構成要素に着目して説明することや、共通する性質について既習の図形を関連付けて考察することに課題があり、図形の構成要素について調べた後、対話的な学びを通して、さまざまな観点から既習の図形を包括して捉え直し、統合的に理解することができるよう指導することが大切であるとした。

「数量関係」については、伴って変わる二つの数量の関係を表す式の意味を理解したり、○や△を用いて式に表したりすることに課題があり、図や表から読み取ったことを式に表す過程を丁寧に扱う（共通するきまりや関係を考えたり、○や△を用いて一般化を図ったりする）ことが大切である。また、式に表した後に言葉や図を用いて児童に説明させるなど、式の読み取りを通して式の意味を考えさせることが大切であるとした。

【令和元年度県学習状況調査実施報告書より】

令和3年度全国学力・学習状況調査では、「図形」の領域の県の平均正答率は、61.9%と全国平均を4.0ポイント上回っているが、その中でも複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方と答えを、式や言葉を用いて記述する問題の正答率は49.6%とやや低かった。図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、求め方を筋道立てて説明することができるようにするために、今後も指導を続けていく必要がある。

「数量関係」に当たる「変化と関係」の領域の県の平均正答率は、76.1%と全国平均と同程度であるが、速さが一定であることを基に道のりと時間の関係について考察する問題では、全国平均を1.1ポイント下回っている。速さを比べる場合には、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いたり、単位量当たりの大きさの意味及び表し方を理解し、単位量当たりの大きさを用いて比べたりすることができるようにするなど、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解できるようにする指導が大切である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・ 令和元年度県学習状況調査実施報告書
- ・ 令和3年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・ 令和3年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

IV 質問紙調査

質問紙調査の結果については、以下の視点で分析を行った。

- ・良好な状態を把握するために、
 - 全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かったか。
 - 望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）か。
- ・課題となっている状況を把握するために、
 - ▼全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かったか。
 - ▼望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満か）。

I 児童質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した児童は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 基本的生活習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
1 朝食を毎日食べているか 【「している」「どちらかといえば、している」の合計】	95.5	+0.6	-0.7 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ 朝食を毎日食べている児童の割合は、全国平均とほぼ同程度である。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
5 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をするか（★） 【3時間以上】の割合】	26.5	-2.5	-5.4 ②

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ 平日に3時間以上、テレビゲームをする児童の割合は、全国平均をやや下回るとともに、平成29年度調査よりも減少しているが、本県小学校第5学年児童の4分の1程度が、平日に3時間以上、テレビゲーム等に時間を費やしている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 道徳や特別活動など、さまざまな機会を通じて、具体的な行動場面をもとに、多面的・多角的に考えたり、目標設定・実践・改善のサイクルで自らの生活や行動について振り返ったりする活動を設定し、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるようにする。
- ◆ 保護者集会や各種通信等を通じて、基本的な生活習慣や節度ある生活を身に付けさせるよう、家庭との連携を一層図る。

(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
15 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	76.1	+6.0	新規
9 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	76.8	+5.9	-6.3 ③
7 将来の夢や目標を持っているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	85.9	+5.6	-2.0 ③
6 自分には、よいところがあると思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	82.1	+5.2	-2.6 ③
14 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	75.4	+5.1	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると考えている児童は全国平均を上回っているが、平成31年度よりも大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
11 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	97.1	+0.3	-0.9 ③
12 人の役に立つ人間になりたいと思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	96.3	+0.8	-1.7 ③
16 友達と協力するのは楽しいと思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	95.0	+1.1	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと考えている児童の割合及び人の役に立つ人間になりたいと考えている児童の割合は極めて高いが、平成31年度よりもわずかに減少している。
- 友達と協力することを楽しいと考えている児童の割合は全国平均よりも1.1ポイント高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ あらゆる機会を通じて、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を徹底するとともに、引き続き、児童同士の心の結び付きを深め、社会性を育む活動を推進し、いじめの未然防止を図る。
- ◆ 学級内や学校行事で一人一人に役割を与えたり、活躍できるような活動を取り入れたりと自己肯定感をもたせる指導や自己有用感をもたせる活動を設定し、今後も児童のよさをより一層積極的に評価していく。
- ◆ 相手の立場になって考える、相手を気遣った言葉をかけるなどの大切さを今後も継続して指導していくとともに、なぜ大切なのかについて児童に考えさせる指導の充実を図る。

(3) 学習習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
19 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)(★) 【「1時間以上」の割合】	71.1	+10.1	+2.0 ⑳
17 家で自分で計画を立てて勉強をしているか(学校の授業の予習や復習を含む) 【「よくしている」「ときどきしている」の合計】	79.6	+5.6	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ 土曜日や日曜日など、学校が休みの日に1時間以上勉強している児童の割合は、全国平均を大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問:なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
20 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっているか(インターネットを通じて教わっている場合も含む) 【「学習塾や家庭教師に教わっている」の割合】	20.5	-19.3	-7.6 ㉑

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
23 新聞を読んでいるか 【「週1回以上」の割合】	15.1	+0.3	-6.1 ㉒
21 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書しているか 【「1時間以上」の割合】	16.3	-1.9	-2.1 ㉓
20 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっているか(インターネットを通じて教わっている場合も含む) 【「学習塾や家庭教師に教わっている」の割合】	20.5	-19.3	-7.6 ㉑

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼ 普段、新聞を読んだり、1日当たり1時間以上読書をしたりして児童の割合は、2割に満たない。

▼ 学習塾や家庭教師の先生に教わっている児童の割合は、5分の1程度であるとともに、全国平均を大きく下回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 今後も家庭での学習が計画的・継続的に行われるよう支援するとともに、学ぶことや方法を児童自らが選び、家庭学習に取り組めるよう支援する。
- ◆ 各教科等の指導として、学習したことが読書活動に発展するような授業展開を工夫する。また、その内容を学級通信等を活用して家庭に情報発信し、家庭でも読書週間を身に付けさせるよう、家庭との連携を図る。
- ◆ NIE等の取組を活用するなど、授業や家庭学習において児童が新聞に触れたり読んだりする機会を設定する。

(4) 地域や社会に関わる活動の状況等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

(参考)

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
25 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	57.2	+4.8	-4.1 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
24 今住んでいる地域の行事に参加しているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	57.5	-0.6	-7.3 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合は、全国平均及び平成31年度よりも下回っている。
- ▼ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童は、全国平均を上回ってはいるものの、平成31年度よりも下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 地域の人たちや関係機関の協力を仰ぎながら、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

地域や社会との関わりの質的な充実を図るために

- 各教科等の学習において、新聞の地元に関する記事等を取り扱うなど、適切な題材や場面で地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行う。
- 総合的な学習の時間の学習素材として、地域の行事や祭りなどの地域に関する内容を取り扱い、自分が住んでいる地域に対する興味・関心をもたせるようにする。具体的には、地域の人たちと関わる場を設定したり、地域の自慢できることを検討したりする学習活動を取り入れ、地域のよさを児童自ら再確認することによって、地域の一員としての自覚や参画する意識を育てるようにする。また、地域の人たちとの触れ合いは、児童の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、地域の人材バンクの作成・活用に努める。
- 各教科等で学習した日本や自分が住んでいる地域のことを、外国語活動・外国語科の授業における言語活動で活用する。

(5) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
26 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか 【週1回以上】の割合	45.5	+5.4	+11.3 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 週1回以上、授業でコンピュータなどのICT機器を使用したことのある児童は、約半数の割合であり、平成31年度調査よりも10ポイント以上上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
28 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか 【役に立つと思う】「どちらかといえば、役に立つと思う」の合計	95.4	+0.9	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 学習の中でコンピュータなどのICT機器が勉強の役に立つと考えている児童の割合は極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
29 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っているか 【1時間以上】の割合	18.3	-1.6	新規
27 あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用しているか 【週1回以上】の割合	35.7	-3.3	新規
26 5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか 【週1回以上】の割合	45.5	+5.4	+11.3 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 普段、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために1日当たり1時間以上使っている児童は、全体の2割に満たない。
- ▼ 授業で、コンピュータなどのICT機器を週1回以上使用している児童の割合は5割に満たないが、平成31年度と比較して、約10ポイント以上上昇した。

②今後の対策・指導

- ◆ 児童の各教科等に対する興味・関心を高めるとともに、深い学びにつながるよう、ICTを効果的に活用する。
- ◆ GIGAスクール構想によって整備された1人1台の情報端末を、文房具のひとつとして捉え、日常的に活用することができるよう工夫する。

(6) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
38 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習へつなげることができるか(★) 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	83.7	+5.4	新規
35 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	86.6	+5.2	新規

- 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習へつなげることができると考えている児童の割合は8割を越え、全国平均よりも高い。
- これまで受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと考えている児童の割合は8割を越え、全国平均よりも高い。

【望ましい回答の割合が前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
30 あなたは、家でどれくらい日本語を話すか 【いつも話している】「ほとんどいつも話している」の合計	99.7	+0.3	新規
36 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	95.9	+0.4	+0.4 ⑳

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると考えている児童の割合は極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった(概ね50%未満)質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 授業を行うに当たっては、引き続き、次のようなことを心がけるようにする

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

- 児童の各教科等に対する興味・関心が高まるよう工夫するとともに、各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面を授業に計画的に位置付けるようにする。
- 児童の実態、学習の目標や内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫しながら考え意見を発表し合う機会を意図的に設け、どの児童にも自分の考えを相手に伝える体験をさせる。また、友達の見解を共感的に聞けるよう、引き続き、話しやすい学級の雰囲気づくりにも心がけ、児童が自信をもって話すことができるようにするとともに、聞いた内容について確認する場を設定し、児童の理解について状況を把握するようにする。

2 学校質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した児童は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 生徒指導等

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
8 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	91.0	+5.7	-0.5 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ 児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導が、9割以上の学校で行われている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
11 学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	97.7	-1.0	-2.3 ③
10 学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持したか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.5	-0.4	0.0 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼ 学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組や、学習規律の維持を徹底したりした学校は9割を超えているが、全国平均よりもわずかに低くなっている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 児童の問い・驚き・気付きを大事にし、児童にとって分かりやすく課題（めあて）を設定する。
- ◆ 一人一人の児童に自分の考えをもたせた上で、グループ学習やペア学習等の話し合い活動の場を設定し、考えを深めさせたり広げさせたりする。
- ◆ 振り返りの場を計画的に設定し、児童の言葉で学習のまとめをするとともに、学習を通して自分ができるようになったことや分かったことなどを話させ、児童自身に学びを自覚させるようにする。
- ◆ 児童が勉強に熱意をもって取り組むことができない要因を多面的に探り、分析するとともに、各教科等の授業では、児童にとって興味・関心を高める工夫を心がける。

(2) 学校運営に関する状況、教職員の資質向上に関する状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
22 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	100.0	+1.5	+0.4 ③
25 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加しているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	91.1	+15.2	-5.0 ③
26 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	94.6	+10.0	-2.9 ③
24 児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	89.1	+6.7	+12.8 ⑲
19 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	99.2	+5.6	+0.3 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 個々の教員が、自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加したり、校内外の研修会や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている割合は9割を越え、全国平均よりも10ポイント以上高い。
- 児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている割合は、平成29年度よりも10ポイント以上高い。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
22 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	100.0	+1.5	+0.4 ③
15 学校として、必要な場合に、変化に柔軟に対応しているか 【している」「どちらかといえば、している」の合計】	99.6	0.0	新規
19 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	99.2	+5.6	+0.3 ③
17 学級経営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいるか 【よく取り組んでいる」「どちらかといえば、取り組んでいる」の合計】	99.2	+0.5	+0.6 ③
23 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	98.9	+0.8	-0.4 ③

16 学校として、業務改善に取り組んでいるか 【「よく取り組んでいる」「どちらかといえば、取り組んでいる」の合計】	98.1	+0.6	-0.5 ③
21 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいるか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	97.2	+1.6	-1.7 ③
20 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	96.1	+1.9	-3.9 ③
26 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	94.6	+10.0	-2.9
18 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列しているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	94.5	+0.1	-1.3 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 県内全ての学校において、組織的・継続的な研修体制が整備されている。
- ほぼ全ての学校で、必要な場合に、変化に柔軟に対応している。
- ほぼ全ての学校で、カリキュラム・マネジメントの視点に基づいた取組が行われている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
13 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行ったか 【「月に数回以上の割合」の合計】	57.2	-16.7	新規
14 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行ったか 【「月に数回以上の割合」の合計】	75.9	-8.8	新規

- ▼ 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合ったり、ともに問題解決に当たることを行った割合は、全国平均を大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
12 校長として、現在、最も学びたいと感じていることは何か 【⑤教員の資質能力の向上の方法」の合計】	46.3	-0.3	新規

- ▼ 校長として、現在、最も学びたいと感じていることとして、教員の資質能力の向上の方法を考えている割合は、全国平均をわずかに下回っており、5割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 今後も、校長のリーダーシップの下、カリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組むことが肝要である。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
37 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に行かすことができるような機会を設けたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	87.1	+5.7	+1.9 ③
34 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	88.7	+1.0	+10.6 ⑳
30 授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思うか(★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	67.7	-0.6	+6.9 ㉑

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている割合は全国平均よりも高く、平成29年度よりも大きく上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった(概ね95%程度)質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
35 児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	97.7	+1.1	-0.9 ㉒

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
40 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったか 【月に数回程度～週1回以上】の割合の合計】	60.3	-9.7	+41.9 ㉓
39 各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字(400字詰め原稿用紙2枚)程度で児童にまとめさせたことがあるか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	48.6	-6.8	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行った割合は、平成29年度から大幅に上昇したが、全国平均に比べて、依然として10ポイント近く下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
39 各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字（400字詰め原稿用紙2枚）程度で児童にまとめさせたことがあるか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	48.6	-6.8	新規

▼ 各教科等の授業などで、調べたことを800字程度で児童にまとめさせたことがある割合は、半数に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けていくことが大切である。
- ◆ 授業において、自らの考えを資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したり、調べたことをや考えを文章でまとめたりする活動を通して、コミュニケーション能力や表現力を高める場を意図的に設定することが大切である。

(4) 総合的な学習の時間・学級活動・道徳

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
42 学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	96.1	+1.6	+1.8 ③
44 特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	96.1	-0.9	-1.8 ③
43 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っているか 【よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	94.6	+1.3	+1.4 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ほぼ全ての学校で、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導が行われている。
- ほぼ全ての学校で、特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導が行われている。
- ほぼ全ての学校で、学級活動を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導が行われている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 総合的な学習の時間や学級活動、特別の教科 道徳において、児童の課題意識を基にした題材の工夫や、児童が調べたり発表したりするような活動を通して、主体的に学習に取り組む態度を育成することが大切である。

(5) 学習評価

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
48 授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計	98.1	-0.2	新規
46 児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計	97.3	+0.7	新規
45 児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけたか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計	97.2	+1.4	新規

- ほぼ全ての学校で、授業の中で目標を児童に示し、授業の最後に学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れている。
- ほぼ全ての学校で、児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるような指導が行われている。
- ほぼ全ての学校で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすような心がけがなされている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
47 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組をしたか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計	75.9	-8.5	新規

- ▼ 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組は、全国に比べて下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 授業の中で目標を児童に示すとともに、授業の最後に学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れているとともに、評価をその後の教員の指導改善や児童の学習改善につなげるようにしているので、今後も指導と評価の一体化に向けた取組の充実を図ることが大切である。
- ◆ 指導と評価の一体化に向けた取組の充実を図るため、校内研修体制の見直しが必要となってくる。

(6) 国語科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
52 目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	95.7	+2.9	新規

□ ほぼ全ての学校において、児童が発表したり、他の意見に対して質問したりする場の設定が行われている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
50 発展的な学習の指導を行ったか(★) 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	58.4	+1.8	-10.1 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼ 発展的な学習の指導は、平成31年度より大きめに低下している。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(7) 算数・数学科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
59 公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	98.0	+0.9	新規
55 補充的な学習の指導を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	95.7	+1.1	-3.6 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ ほぼ全ての学校で、公式やきまり、計算の仕方などを指導する際、そのわけを理解できるように工夫している。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
56 発展的な学習の指導を行ったか(★) 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	70.1	+3.0	-6.9 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼ 発展的な学習は、県内の約7割の学校で行われているが、平成31年度よりも約7ポイント下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(8) 英語科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
61 英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合う（対話的な）活動に取り組みましたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	96.5	+3.0	新規

□ ほぼ全ての学校で、自分自身の考えや気持ちを伝え合う対話的な活動が行われている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(9) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
69 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制があるか 【「ある」「どちらかといえば、ある」の合計】	37.7	-16.1	新規
70 教職員間の連絡にコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っているか 【「活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	63.8	-14.3	新規
75 児童一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか 【「毎日～時々持ち帰り、利用させている割合」の合計】	13.6	-6.9	新規
66 教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行ったか 【「週1回以上の割合」の合計】	89.1	+2.5	-7.4 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフがいるなど、技術的にサポートできる体制があるとした割合は4割に満たず、また、全国平均よりも大きく下回っている。
- ▼ 教職員間の連絡にコンピュータなどのICT機器を活用した取組を行っている割合は、約6割であり、全国平均を大きく下回っている。
- ▼ 児童一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を家庭で利用できるようにしている割合は、極めて低い。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
75 児童一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか【「毎日～時々持ち帰り、利用させている割合」の合計】	13.6	-6.9	新規
72 児童同士がやりとりする場面にコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っているか【「活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	33.4	+3.3	新規
69 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制があるか【「ある」「どちらかといえば、ある」の合計】	37.7	-16.1	新規
73 教職員と家庭との連絡にコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っているか【「活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	37.7	-1.9	新規
64 コンピュータなどのICT機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができているか【「よくできている」「できている」の合計】	38.1	-1.3	新規
71 教職員と児童がやりとりする場面にコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っているか【「活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	46.7	+2.0	新規
67 教員は、学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、児童の状況に応じた指導に活用しているか【「活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	48.6	+4.7	新規

- ▼ 児童一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を家庭で利用できるようにしている割合は、極めて低い。
- ▼ コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフがいるなど、技術的にサポートできる体制があるとした割合は4割に満たず、また、全国平均よりも大きく下回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ ICTを活用した学習活動については、整備された1人1台端末の積極的な利活用を図るとともに、校内研修等を通して、教員のICT活用指導力を高め、全ての教員が効果的にICTを活用できるようにすることが求められる。
- ◆ ICT機器の利用については、家庭の理解と協力を得るとともに、児童の情報モラルの育成についても、組織的・計画的に行う必要がある。

(10) 特別支援教育

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
76 学校の教員は特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行ったか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	96.1	+1.7	+0.3 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ 特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導上の工夫を行っている教員の割合は極めて高く、全国平均及び平成31年度よりも上回っている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 引き続き、特別支援教育について理解し、児童の特性に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的・計画的に行う必要がある。

(11) 小学校教育と中学校教育の連携

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
79 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有したか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	42.8	-5.3	-12.3 ③
77 近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行ったか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	56.4	-2.7	-16.4 ③
78 近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行ったか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	56.9	-0.5	-13.4 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼ 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有した割合は約4割にとどまり、全国平均及び平成31年度よりも下回っている。

▼ 近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った割合や授業研究などを合同で研修した割合は、過半数を超えているものの、平成31年度に比べ大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
79 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有したか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計	42.8	-5.3	-12.3 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼ 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有した割合は約4割にとどまり、全国平均及び平成31年度よりも下回っている。

②今後の対策・指導

◆ 小中連携に当たっては、引き続き、次のようなことを心掛けるようにする。

小中連携の充実を図るために

- 小・中教職員全体での合同研修会では、授業参観や協議を通して、相互の児童生徒の実態や相互の教育内容、指導方法、指導形態等、現状で行われている教育活動の具体的な取組などを共通理解し、各校の指導のねらい等に対する理解を共有する場にする。
- 小中連携を推進する会議等では、各学校が自校の教育目標の下に進めている教育活動の中での連携の可能性を探ったり、児童生徒の学力に関する課題を共有したりすることで、自校の教育課程の編成に反映させるようにする。
- 研修会や会議等で得た中学校での取組や生徒の現状に関する情報を全教職員で共有し、義務教育9年間を通じて子どもを育てるという意識の下、小学校卒業時までには児童にどのような力を身に付けさせるかという視点も含めて、教育課程の編成に当たるようにする。
- 全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有する機会を設定する。

(12) 家庭や地域との連携

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
82 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加しているか 【よく参加している」「参加している」の合計	96.1	-1.1	-1.9 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

□ 保護者や地域の人が学校の美化や登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加している割合は極めて高い。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
80 職場見学や職場体験活動を行っているか 【「行っている」と答えた学校の割合】	42.4	-1.8	-11.7 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 職場見学や職場体験活動の行っている割合は5割に満たず、また、平成31年度よりも10ポイント以上下回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 地域、学校、児童の実態を踏まえ、必要に応じて、地域の人材を授業に招聘したり、ボランティア等による授業サポートを取り入れたりするなど、地域人材の積極的な活用に努める。
- ◆ 地域の実態を踏まえ、必要に応じて、社会教育施設等の積極的な活用に努める。
- ◆ 今後も学校支援ボランティア活動を推進し、保護者や地域が連携して学校を支援する体制づくりに努める。

(13) 家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
85 家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.1	+5.5	-1.0 ③
87 家庭学習の取組として、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	94.9	+5.5	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図っている割合は9割を越えており、全国平均よりも高い。
- 家庭学習の取組として、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしたと答えた割合は9割を越えており、全国平均よりも高い。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
82 家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたか 【よく参加している】「参加している」の合計	99.2	+3.7	+0.6 ③
85 家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.1	+5.5	-1.0 ③
87 家庭学習の取組として、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしたか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	94.9	+5.5	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 県内のほぼ全ての学校で、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしている。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 家庭学習は、学習したことを児童に定着させるためには欠かせないものであるため、引き続き、次のようなことを心がけるようにする。

家庭学習を充実させるために			
○家庭学習の課題の与え方について、学校の児童の実態を考慮し、引き続き、学年ごとの基本的な学習時間、教科ごとの学習方法等について教職員間で共通理解を図る。			
○学習内容の定着を図るためのドリルやプリント学習だけではなく、児童の自主的な学習を大事にした課題や、調べたり文章を書いたりする課題を定期的に出すなど、学習の内容や方法を具体的に指導する。			
○引き続き、児童一人一人の家庭学習を積極的に評価し、手本となる児童の家庭学習の方法（ノート等）を紹介するなど、家庭学習の内容が充実するように支援する。			
○家庭学習の習慣化を図るために、学校側から保護者に対して家庭学習に対する考え方を示したり、話し合う場を設けたりして、家庭と協力して取り組む。			

(14) 全国学力・学習状況調査の結果等の活用

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
91 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているか 【よく行っている】「どちらかといえば、行っている」の合計	94.1	+5.4	-4.5 ③
90-2 全国学力・学習状況調査の結果を教育活動の改善のために、学校が実施する学力・学習状況調査等、他の調査結果を組み合わせた分析を行っているか 【はい】と答えた学校の割合	80.9	+5.2	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている割合は9割を越え、全国平均よりも5ポイント以上高いが、平成31年度よりは低下している。
- 教育活動の改善のため、学校が実施する学力・学習状況調査等、他の調査結果を組み合わせた分析を行っている割合は、8割を越え、全国平均よりも高い。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
90-1 全国学力・学習状況調査の結果を児童の傾向や課題を把握するために活用しているか 【はい】と答えた学校の割合	99.2	+0.6	新規
91 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っているか 【よく行っている】「どちらかといえば、行っている」の合計	94.1	+5.4	-4.5 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ほぼ全ての学校において、児童の傾向や課題を把握するために活用されている。
- 地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている割合は9割を越え、全国平均よりも5ポイント以上高いが、平成31年度よりは低下している。

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
88-3 全国学力・学習状況調査の問題を、学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げているか 【はい】と答えた学校の割合	37.7	-27.3	新規
90-3 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、学校が独自に作成する教材の内容を検討する際に活用しているか 【はい】と答えた学校の割合	37.4	-17.4	新規
88-2 全国学力・学習状況調査の問題を、学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年・教科の教員以外の教員も出題意図を確認しているか 【はい】と答えた学校の割合	61.1	-12.3	新規
88-8 全国学力・学習状況調査の問題を、教員が独自に作成する教材の内容を検討する際に参考としているか 【はい】と答えた学校の割合	54.5	-11.6	新規
88-4 全国学力・学習状況調査の問題全体を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行っているか 【はい】と答えた学校の割合	59.1	-10.7	新規
90-4 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としているか 【はい】と答えた学校の割合	37.4	-10.7	新規
88-9 全国学力・学習状況調査の問題を、保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用しているか 【はい】と答えた学校の割合	35.4	-10.5	新規
90-7 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、課題が見られた点を中心として校内研修を実施し、授業改善に活用しているか 【はい】と答えた学校の割合	77.4	-10.3	新規
88-7 全国学力・学習状況調査の問題を、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としているか 【はい】と答えた学校の割合	39.7	-9.7	新規
90-6 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用しているか 【はい】と答えた学校の割合	48.6	-8.1	新規
88-6 全国学力・学習状況調査の問題を、学力・学習状況の把握のため、児童への家庭学習等の課題の参考としているか 【はい】と答えた学校の割合	63.8	-6.0	新規

- ▼ 全国学力・学習状況調査の問題を、学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げている割合は4割に満たず、全国平均と比べて大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、学校が独自に作成する教材の内容を検討する際に活用している割合は4割に満たず、全国平均と比べて大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の問題を、学習指導要領の理解を深めるため、調査対象学年

・教科の教員以外の教員も出題意図を確認している割合は6割を越えているが、全国平均と比べて10ポイント以上下回っている。

- ▼ 全国学力・学習状況調査の問題を、教員が独自に作成する教材の内容を検討する際に参考としている割合は、約半数であり、全国平均と比べて10ポイント以上下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の問題全体を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行っている割合は、約6割であるが、全国平均と比べると10ポイント以上下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としている割合は4割に満たず、全国平均と比べても10ポイント以上下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の問題を、保護者や地域の人の教育活動への協力・連携を進めるために活用している割合は4割に満たず、全国平均と比べても10ポイント以上下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、課題が見られた点を中心として校内研修を実施し、授業改善に活用している割合は8割近くに及んでいるものの、全国平均と比べると、10ポイント以上下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の問題を、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としている割合は4割に満たず、全国平均と比べても約10ポイント下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、保護者や地域の人の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している割合は、約半数だが、全国平均と比べると10ポイント近く下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の問題を、学力・学習状況の把握のため、児童への家庭学習等の課題の参考としている割合は約6割であり、全国平均よりも6ポイント下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
88-9 全国学力・学習状況調査の問題を、保護者や地域の人の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用しているか 【「はい」と答えた学校の割合】	35.4	-10.5	新規
90-3 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、学校が独自に作成する教材の内容を検討する際に活用しているか 【「はい」と答えた学校の割合】	37.4	-17.4	新規
90-4 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としているか 【「はい」と答えた学校の割合】	37.4	-10.7	新規
88-3 全国学力・学習状況調査の問題を、学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げているか 【「はい」と答えた学校の割合】	37.7	-27.3	新規
88-7 全国学力・学習状況調査の問題を、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としているか 【「はい」と答えた学校の割合】	39.7	-9.7	新規
90-6 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用しているか 【「はい」と答えた学校の割合】	48.6	-8.1	新規

- ▼ 全国学力・学習状況調査の問題を、保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している割合は4割に満たず、全国平均よりも10ポイント以上下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、学校が独自に作成する教材の内容を検討する際に活用している割合は4割に満たず、全国平均よりも大幅に下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、教育活動の改善のために、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としている割合は4割に満たず、全国平均よりも10ポイント以上下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の問題を、学習指導要領の理解を深めるため、校内研修等で、個別の問題を題材として取り上げている割合は4割に満たず、全国平均よりも大幅に下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の問題を、学校が独自に実施するテストや、学力・学習状況調査等で作問する際に参考としている割合は4割に満たず、全国平均よりも約10ポイント下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を、保護者や地域の人々の学校教育活動への協力・連携を進めるために活用している割合は約半数程度であり、全国平均と比べて、約8ポイント下回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 全国学力・学習状況調査等の活用については、以下のことを心がけるようにする。

組織的な取組を推進するために

○調査結果で明らかとなった成果と課題について、保護者参観日の全体会や学校通信等を通じ、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行うとともに、学力向上のための取組について理解と協力を求める。

(15) 新型コロナウイルス感染症の影響

①概況及び課題

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
C5-13 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習におけるICT活用について、教育委員会が積極的ではなかった 【当てはまる」「やや当てはまる」の割合】	34.3	+12.9	新規
C5-3 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の通信環境（無線LAN等）が整っていなかった 【当てはまる」「やや当てはまる」の割合】	77.8	+12.4	新規
C5-1 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業としていた期間中の家庭学習におけるICT活用について、学校（送信側）のPC・タブレット等の端末が不足していたか 【当てはまる」「やや当てはまる」の割合】	75.5	+10.4	新規
C5-15 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業としていた期間中の家庭学習におけるICT活用について、オンラインでの配信やWeb上での学習のための教材が不足していたか 【当てはまる」「やや当てはまる」の割合】	81.7	+8.6	新規
C2-4 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業していた期間中、家庭	40.1	+8.0	新規

学習として児童の自由研究や自主学習ノート等の学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合			
C5-14 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中のICT活用について、ICT活用の必要性を校長として十分には感じていなかった 【当てはまる」「やや当てはまる」の割合	15.2	+6.4	新規
C5-2 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中のICT活用について、学校の周辺機器（Webカメラやスキャナ等）が不足していた 【当てはまる」「やや当てはまる」の割合	81.3	+6.0	新規

- 地域一斉の学校の臨時休業等の期間中のうち、学校の全部を休業としていた期間中の家庭学習におけるICT活用について、教育委員会が積極的ではなかった割合は3割を越えており、全国平均よりも10ポイント以上上回っている。
- 地域一斉の学校の臨時休業等の期間中、学校の通信環境（無線LAN等）が整っていなかった割合は、約8割であり、全国平均よりも10ポイント以上上回っている。
- 地域一斉の学校の臨時休業等の期間中の家庭学習におけるICT活用について、学校（送信側）のPC・タブレット等の端末が不足していた割合は約8割であり、全国平均よりも10ポイント以上上回っている。
- 地域一斉の学校の臨時休業等の期間中の家庭学習におけるICT活用について、オンラインでの配信やWeb上での学習のための教材が不足していた割合は、約8割に及び、全国平均よりも約9ポイント上回っている。
- 地域一斉の学校の臨時休業等の期間中のうち、学校の全部を休業していた期間中、家庭学習として児童の自由研究や自主学習ノート等の学習を課していた割合は約4割に及び、全国平均より8ポイント上回っている。
- 地域一斉の学校の臨時休業等の期間中のうち、学校の全部を休業としていた期間中のICT活用について、ICT活用の必要性を校長として十分には感じていなかった割合は、約15ポイントであり、全国平均よりも6ポイント以上上回っている。
- 地域一斉の学校の臨時休業等の期間中のうち、学校の全部を休業としていた期間中のICT活用について、学校の周辺機器（Webカメラやスキャナ等）が不足していた割合は、約8割以上に及び、全国平均よりも6ポイント上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
C2-2 地域一斉の学校の臨時休業等の期間中のうち、学校の全部を休業していた期間中、家庭学習として学校が作成したプリント等を配布（電子メールや学校のHP等を活用して配信する場合を含む）していたか 【基本的に全校で実施】の割合	63.0	-25.5	新規
C2-1 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、教科書に基づく学習内容の指示をしていたか 【基本的に全校で実施】の割合	59.1	-24.2	新規
C2-7 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の	2.3	-24.2	新規

教材（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を活用した学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合			
C2-8 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合	0.8	-23.0	新規
C2-9 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツ等を活用した学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合	1.6	-13.7	新規
C2-10 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、テレビ放送を活用した学習を課していたか 【テレビ放送を活用した】割合	3.1	-11.9	新規
C2-5 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合	8.2	-5.5	新規
C2-11 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として民間のデジタル教材を活用した学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合	2.7	-5.1	新規

- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間中のうち、学校の全部を休業していた期間中、家庭学習として学校が作成したプリント等を配布（電子メールや学校のHP等を活用して配信する場合を含む）していた割合は、6割を越えているが、全国平均よりも25ポイント以上下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として教科書に基づく学習内容の指示をしていた割合は、約6割であったが、全国平均よりも約24ポイント下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の教材（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を活用した学習を課していた割合は、2.3ポイントであり、全国平均より約20ポイント下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を課していた割合は、1ポイントに満たず、全国平均より20ポイント以上下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツ等を活用した学習を課していた割合は、1.6ポイントであり、全国平均より10ポイント以上下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習としてテレビ放送を活用した学習を課していた割合は、3.1ポイントであり、全国平均より10ポイント以上下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を課していた割合は、10ポイント以下であり、全国平均より5ポイント以上下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業としていた期間中、家庭

学習として民間のデジタル教材を活用した学習を課していた割合は2.7ポイントであり、全国平均より5ポイント以上下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
C2-8 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合	0.8	-23.0	新規
C2-9 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツ等を活用した学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合	1.6	-13.7	新規
C2-7 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の教材（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を活用した学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合	2.3	-24.2	新規
C2-11 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、民間のデジタル教材を活用した学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合	2.7	-5.1	新規
C2-10 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、テレビ放送を活用した学習を課していたか 【テレビ放送を活用した】割合	3.1	-11.9	新規
C2-6 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業していた期間中、家庭学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合	3.5	+1.3	新規
C8 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、児童と教員の関係に変化があったと思うか 【よくなった」「どちらかといえばよくなった」の割合	5.1	-4.5	新規
C7 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、児童同士の関係に変化があったと思うか 【よくなった」「どちらかといえばよくなった」の割合	5.4	-2.6	新規
C2-5 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を課していたか 【基本的に全校で実施】の割合	8.2	-5.5	新規
C9 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、教員と保護者の関係に変化があったと思うか 【よくなった」「どちらかといえばよくなった」の割合	9.3	-0.3	新規

C5-14 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中のICT活用について、ICT活用の必要性を校長として十分には感じていなかった 【「当てはまる」「やや当てはまる」の割合】	15.2	+6.4	新規
C5-11 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中の家庭学習におけるICT活用に対して、教職員からの協力を得るのが難しかったか 【「当てはまる」「やや当てはまる」の割合】	24.5	+3.3	新規
C5-13 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中の家庭学習におけるICT活用について、教育委員会が積極的ではなかった 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	34.3	+12.9	新規
C5-12 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中の家庭学習におけるICT活用に対して、保護者からの支援を得るのが難しかった 【「当てはまる」「やや当てはまる」の割合】	38.5	+3.9	新規
C2-4 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業していた期間中、家庭学習として、児童の自由研究や自主学習ノート等の学習を課していたか 【「基本的に全校で実施」の割合】	40.1	+8.0	新規

- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を課していた割合は1ポイントに満たず、全国平均と比べても20ポイント以上下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツ等を活用した学習を課していた割合は1.6ポイントであり、全国平均と比べて10ポイント以上下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の教材（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を活用した学習を課していた割合は2.3ポイントであり、全国平均と比べて20ポイント以上下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習として民間のデジタル教材を活用した学習を課していた割合は、2.7ポイントであり、全国平均と比べて5ポイント以上下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業としていた期間中、家庭学習としてテレビ放送を活用した学習を課していた割合は、3.1ポイントであり、全国平均より10ポイント以上下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業していた期間中、家庭学習として同時双方向型オンライン指導を通じた学習を課していた割合は、3.5ポイントであり、全国平均を約1ポイント上回っている。
- ▼ 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、児童と教員の関係に変化があったと思う割合は、約5ポイントであり、全国平均を約5ポイント下回っている。
- ▼ 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、児童同士の関係に変化があったと思う割合は、5.4ポイントであり、全国平均を約3ポイント下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち学校の全部を休業としていた期間中、家庭

学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を課していた割合は8.2ポイントであり、全国平均を5ポイント以上下回っている。

- ▼ 新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、教員と保護者の関係に変化があったと思う割合は、9.3ポイントであり、全国平均をわずかに下回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中のICT活用について、ICT活用の必要性を校長として十分には感じていなかった割合は、約15ポイントであり、全国平均を約6ポイント上回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中の家庭学習におけるICT活用に対して教職員からの協力を得るのが難しかった割合は、約3割程度であり、全国平均を3ポイント以上上回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中の家庭学習におけるICT活用について、教育委員会が積極的ではなかった割合は約3割程度であり、全国平均を10ポイント以上上回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業としていた期間中の家庭学習におけるICT活用に対して保護者からの支援を得るのが難しかった割合は、約4割であり、全国平均より約4ポイント上回っている。
- ▼ 地域一斉の学校の臨時休業等の期間のうち、学校の全部を休業していた期間中、家庭学習として児童の自由研究や自主学習ノート等の学習を課していた割合は、約4割であり、全国平均を8ポイント上回っている。

②今後の対策・指導

- ◆ 新型コロナウイルス感染症や災害等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により、全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急に整備することが必要である。
- ◆ GIGAスクール構想によって整備された1人1台の情報端末の活用にあたっては、平常時の教育活動のみならず、家庭での活用の仕方などについても学校と家庭が共通理解を図り、連携して活用することが望ましい。
- ◆ 授業等でICTを効果的に活用した実践例などについては、校内研修等で情報共有を積極的に行い、全ての教員のICT活用指導力の向上を図ることが必要である。